	音楽研究会　　部会記録				
日時	平成３０年3月７日（水）　１５：３０～１６：４５				
部会名	鑑賞部会			主任	曳田　裕子（白幡小）
参加数	９名	司会	曳田　裕子（白幡小）	記録	伊藤　里穂（緑小）

鑑賞部会テーマ

音楽のよさや面白さ、美しさを自ら感じ取り、聴き味わう鑑賞活動

研究仮説

子どもの実態や教材分析をもとに学習展開を工夫することにより、子ども自らが音楽の面白さ、美しさを感じ取り、聴く喜びを感じ取ることができる。

○実践提案Ⅲ

提案：近藤　愛子先生（白幡小）

第１学年　「曲の楽しさに気付いて聴こう」

教材　「ラデツキー行進曲」　ヨハン　シュトラウス（父）作曲

○　提案者より

・本時のめあて「音のつよさに気をつけてきこう」

〔共通事項〕　強弱を中心　指導事項イ　を扱う。

・鑑賞は本年度４回目、子ども達は、聴くことに慣れている。

・体の動きで感じ取る活動では、「音楽に合った動き」「何が変わったかに気を付けて聴こう」と指示。

＜子どもたちがとらえていた曲の特徴＞

・強弱→大の中でも小さいところがある

急に大きくなるところがある

少し強い、すごく強いなど

・反復→始めと終わりが「ほとんど同じ」

・曲のつくり→なかの部分に、スラーっとした（なめらかな）ところがあった。

※始め　なか　終わりをとらえることは、４月から取り組んできた。

＜課題＞

・聴き取ったことと感じ取ったことの関連

多くの子ども達が、強弱や旋律の特徴、反復曲のつくりなど音楽の特徴に気付くことができたが、感じ取ったこととつなげていくことができなかった。

○　討議

・音楽を形づくっている要素の関わり合いを感じ取るとは、どういうことか（主題の目標について）

→強弱と拍の流れの変化に関わり合いがある。一つの要素だけで、音楽は成り立たない。

・子ども達から「感じ取ったこと」があまり出なかったことについて

（聴き取ったことと感じ取ったことの関連を図るには）

→この曲は特徴や音楽の仕組みに、注目が向きやすい。

→低学年は、体の動きで感じ取る活動が大切だと思う。体を動かしながら聴く時間を確保すると、多くの子どもが、感じ取ったことを言葉で表現できた。想像がふくらむ。

→「曲の楽しいところをみつけてみよう」と発問。何をねらうのかにもよるのではないか。

→音楽的な要素と子どもたちの体の動きを関連づける、教師の価値づけが大切。

○　今年度の振り返り

・山田耕筰の歌曲を取り上げてよかった。様々な曲に取り組みたい。
・山田耕筰の歌曲、歌詞と旋律が一体となった美しさを学習したことで、歌唱での歌詞と旋律を生かした歌い方、旋律づくりなどでも、子どもの気付きがあった。
・日本の音楽家に注目して、その功績や音楽について、調べ学習などをする子どもがいた。
・〔共通事項〕を窓口にした教材研究ができ勉強になった。
・同じ曲、同じ展開でも子どもの反応は様々で、楽しんでいたが同時に難しさもあると感じた。
・研究をすすめる中で「楽しかった」と思える授業ができるようにしたいという思いが強くなった。
・部会での教材分析をもとに学習展開を工夫することができよかった。今後は、「聴き深める子どもの姿」について研究をしたい。
・「どんな聴き方をしたのか。」「何を学んだのか分かる。」子どもたちが実感できる授業を目指していきたい。